

職場紹介

【手術室】

手術室は全部で6室あり、定時手術に加えて夜間、土・日曜日、祝日24時間緊急手術に対応しています。主に心血管・脳血管・悪性腫瘍手術が多く、平成26年10月から皮膚腫瘍科が新設され、平成26年度は2379件の手術実績がありました。

緊急手術の約8割が心血管外科、外科、脳外科の手術です。一般外科・婦人科・泌尿器科においては、鏡視下手術が少しずつ増加し、全手術の約1割を占めています。今後はハイブリット手術といった最先端医療を含め、進化する手術技術や環境に柔軟に対応できるようにしていきたいと考えています。多様化した各診療科の特殊性を理解し、看護実践ができる手術室エキスパート看護師として専門性が発揮できるように評価指標としてクリニカルリーダーを取り入れました。手術室では、医師・麻酔科医・手術室看護師・ME等のスタッフが協力し合い、安心・安全な手術が出来ることを目標に日々努めています。

手術を受けるということは、ほとんどの患者様にとって未知で不安なものです。術前・術後訪問を行い、患者様と直接お会いし、良好な信頼関係を築いて、患者様に合ったよりよい看護を提供していくことを心掛けています。局所麻酔の手術に対しては、少しでも患者様の緊張や不安軽減につながるよう、手術室内ではBGMを流しています。平成27年6月より長時間の手術を受けられる患者様のご家族の家族控え室の運用を開始致しました。控え室の広さの関係上現在は1組の使用としていますが、ご家族のお気持ちが和らげるようにゆっくり座れるソファなど設置しています。

私たち手術室スタッフは、患者様に”当院で手術を受けて良かった”と満足していただけるような手術室を目指しています。

(文責：手術室看護師長 中元 めぐみ)



新任紹介



麻酔科

田中 友紀

6月から麻酔科医師として鹿児島医療センターで勤務させて頂くことになりました。今回3年ぶりの2度目の勤務となりました。麻酔科医としてまだまだ未熟ですが、鹿児島医療センターで多くの症例を経験してよりよい医療を患者と家族に提供できるよう日々精進していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



放射線科

米山 知秀

本年6月より放射線科医師として勤務させて頂いております。非常勤として勤務したことはありませんが、常勤は初めてで種々のシステムにまだ慣れず、ご迷惑をおかけしております。専門は画像診断ですので、各科先生方に求められるような画像診断を提供できるよう頑張る所存ですので、よろしくお願い致します。またIVRもある程度までは対応可能ですので、その際はご相談ください。

仕事以外のこととしては、ゴルフが趣味ですので、ラウンドのお誘いお待ちしております。



婦人科
レジデント

森 まり絵

5月から婦人科で勤務させて頂くことになりました。入局後は県立大島病院で産科を、市立病院でNICUを学び、婦人科に携わるのは研修医以来となります。こちらではほぼ毎日婦人科手術があり、このような環境で勉強できることを嬉しく思います。少しでも早く戦力となり、お役に立てればと思っておりますが、まだまだ日々の業務をこなすに精一杯といったところです。

分からないことだらけで先生方をはじめ、多くのコメディカルの皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、どうぞご指導の程よろしくお願い致します。

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・鷲頭・吉留・山口・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。



連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

2015.7 vol.111

第13回 脳卒中市民講座

去る6月7日(日)に、鹿児島県民交流センターにおいて脳卒中市民講座を開催致しました。一般市民の方々に脳卒中の知識を広めることにより、発症予防や死亡率、後遺症の軽減に繋げることを目的に例年この時期に開催しており、第13回目となる本年は(公社)日本脳卒中協会、鹿児島市医師会、鹿児島県、鹿児島県医師会、田辺三菱製薬(株)、第一三共(株)、三井住友海上あいおい生命保険(株)との共催により「脳卒中を克服しよう!」をテーマに行いました。

まず花田修一院長の開会挨拶に続いて、第一部は脇田正之(脳血管内科医長)、井手智子(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)による「脳卒中を診断しよう」と題した脳卒中の基礎知識や発症時の対応法などについての講演、および宮下史生(脳血管内科医長)による「脳梗塞救急治療最前線」と題した最新の脳梗塞急性期治療についての講演を行いました。第二部では、昨年に引き続きオムロンコーリン株式会社及び日清オイリオグループ株式会社のご後援および多大なご協力により、脳卒中予防に関わる商品を参加者へプレゼントする抽選会を行いました。続く第二部では「脳卒中に負けないために〜後遺症とのつきあい方〜」と題して今村純一(副院長/脳神経外科部長)、鶴川俊洋(リハビリテーション科医長)、井手智子、吉留由希乃(地域医療連携室ソーシャルワーカー)、橋本末雷(脳卒中担当薬剤師)、淵脇美保子(栄養管理室長)によるパネルディスカッションを行い、ひとたび脳卒中を起こした後にいかにして後遺症とうまくつきあい克服していくか、そして再発を予防するか、等のテーマについて一部会場からのご質問に答えつつ議論いたしました。最後は今村純一副院長が閉会の挨拶で締めくくりました。

本年もまた600名を超える多くの方に参加して頂きましたが、事後のアンケートでは、「とても勉強になった」「来年も参加する」との声を多く頂きました。なお、アンケートでは、「次は予防の話を聞きたい」「もっと広い会場で開催して欲しい」というご意見も頂きました。次回以降さらに良い会が開催できるよう準備して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

最後に、今回も無事に開催することが出来たのは、院内各部署および共催、後援各所や開催にご理解頂きました連携先ご施設のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りしてご協力、ご共催、ご後援ならびにご支援頂きました方々、各施設、団体に厚く御礼申し上げます。

(文責：脳卒中センター長 松岡 秀樹)



第1回 連携病院事務職員勉強会 開催

平成27年6月22日（月）に当院において、「診療費未収金への対応」をテーマに第1回目となる連携病院事務職員勉強会を開催しました。勉強会には10病院26名の参加があり、各病院の未収金解消への取組、問題点などを話し合いました。未収金問題はどの病院も抱えている共通課題で有り、なかなか改善策が見いだせない案件ではありますが、参加者から貴重なご意見をいただきました。

本勉強会開催の経緯は昨年11月の「鹿児島医療センター医療連携懇談会」の折に出席されていた事務長さん方と意見交換をさせていただき、その後1月に事務長同士の集まりを計画し、その席上、連携強化の意味合いから今後それぞれの病院の事務職員同士の勉強会開催を提案させていただいたところご賛同いただき開催に至りました。

医療連携は医師やコメディカルなど診療部門が中心となっているところがあるが、なかなか事務部門は連携の表舞台にはでないところがありますが、私は常々事務部門でも何か取り組めるものがあるのではと考えていました。

また、国立病院機構は全国143病院あるのですが、国立病院間の事務の交流はあっても他の設立主体の医療機関の事務の方々との交流はほとんどないのが実情であります。

私どもも同じ医療圏内にある病院の事務職という立場でありますので、皆様方と交流を深めさせてもらい、垣根を越えて情報交換しあうことでそれぞれが抱えている問題解決や経営改善等の糸口に繋がっていけば幸いだと思っています。その中で、連携が深まり鹿児島という地域が他の地域よりも盛り上がり、事務業務の効率化、レベルアップが図ればと考えています。

参加者のアンケートでは殆どの方から「良かった」、「役に立った」との評価をいただきました。また、次回も「参加したい」とのご意見も多くいただきました。今後も様々なテーマによる勉強会を開催していきたいと考えています。本年10月には地域医療連携懇談会を開催予定としています。その際各病院の事務長さん方からご意見を伺えればと思っています。是非多くの連携病院の事務長さん方のご参加をお願いいたします。

（文責：事務部長 太田 春彦）



第3回 救急医療懇談会 開催報告



平成27年6月3日（水）に鹿児島市消防局と合同の救急医療懇談会を開催しました。今回で3回目となる懇談会には、消防局より救急隊の方など19名と、当院からは医師・研修医を始め看護師・コメディカル・事務等々、約50名の参加がありました。

まず始めに心臓血管外科立岡修治医師による「脳合併症を伴った急性大動脈解離の3例」についての講演があり、重篤な急性大動脈解離の症例毎のリスクの把握、治療戦略の重要性について説明がありました。

続いて脳血管内科宮下史生医師による「Solitaire™MFRによる血栓回収術が奏功した重症心原性脳塞栓症の一例」についての講演では、tPA静注療法の利点や欠点、近年の血栓回収療法を非常に分かりやすく解説して頂きました。今回も会場から多くの質問、意見等があり懇談会を大いに盛り上げて頂きました。

最後に消防局中村徳明救急係長からは上半期の活動内容について、枕崎市から当院へドクターヘリでの搬送事例の紹介や医療機関別の搬送件数等の報告があり、各医療機関との連携やスムーズな情報交換の重要性について再認識をしました。

平成26年5月から「顔の見える連携」を目指して始めましたこの懇談会も、消防局の方々のご協力の下、定例会として定着しつつあり感謝しております。当院の救急患者も年々増加傾向にあり、この懇談会の影響も少しずつ感じていますが、永く継続していくことで当院の連携強化のみならず、引いては鹿児島医療圏救急医療の発展、レベルアップに寄与できればと期待しているところです。

次回開催は12月頃を予定しております。是非、多くの職員の方に参加して頂ければと思います。

（文責：経営企画室長 三宅 修二）

